

— 神風特別攻撃隊は —
われわれの誇りでなければならぬ。
想像を絶する精神的苦痛と動揺を
乗り越えて目標に達した人間が
われわれの中にいたのである。
大岡昇平『レイテ戦記』

國の支之

(題字・中井信夫元大阪府議会議長)

関西防衛を支える会
(略称・関防会)
〒540-0012
大阪市中央区谷町2丁目7番6-605
TEL 06-6947-0831
発行人 高橋季義
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第10号

(春季号)
平成14年4月1日(月)
(皇紀2662年)
(大正紀元91年)
(昭和紀元77年)

関西防衛を支える会 第4回総会

第四回定時総会開催

2月17日、午後4時より新阪急ホテルに於いて定時総会が開催された。百名余の出席者を得て国家斉唱などの国民儀礼に始まり、議案を承認し無事終了した。(写真参照ください)



隣国、独裁者の動き

昨年九月に発生したニューヨークのテロ事件を、もっとも興味深く見ているのは、お隣の国の独裁者であろうと思つていたところ、果たせるかな昨年十二月には早速妙な工作船を送り込んで来た。

先に日本海から頭越しに飛ばしてきたテポドンに引き続いてこの不法行為は、あらためて我々に国際テロの身近さを思い知らせてくれるとともに、真の国防の在り方について猛省を迫る効果をもたらすこととなった。

幸いテポドンは太平洋に消え、工作船は我が海上保安庁の活動により、辛くも制圧することができたのであるが、その対応の適否については大きな反省が残された。

仮にテポドンが無弾頭であつたとしても誤って東京・大阪などの大都会に落下しておれば大惨事となつたであろうし、不審船(海賊以外の何者でもない)の発射したロケット弾(?)が不幸にして巡視船に命中していたらコッパ微塵、大量殉職事案は間違いのないところであり、まさに肌えに粟を生じる思いであつた。とてもじゃないが手放してよかつたとは言えなかつたのである。

この場合、戦いの場合は日常の市民生活の真つただ中である。しかも最悪の事態としてその可能性の方が高いのだが人または重要な施設を人質に取られていることを想定しなければならぬ。麻生幾氏の近未来小説『言戦布告』に描かれている事態は決して荒唐無稽なものとは言えないのである。

後の方に勝つていいのか
これに鑑みて我々の国防体制は果たして大丈夫なのだろうか。

我が自衛隊はその名の示すとおり、あくまでも専守防衛の武力であつて、領海もしくは領土を侵犯された

とき初めて防衛出動として発令される、となつていくが...

したがって常に受けて立つ、つまり剣道で言う「後の先」によって勝ちを制しなければならぬという極めて難しい戦いを強いられるのである。

海上で侵入者を捕獲できなかった場合はまだ行動しやす。侵犯船に向かつてひたすら正確に弾丸を撃ち込めばよいからである、また広い海上では周辺への配慮は要らない(発見から捕獲・接触・攻撃までの手順の難しさは残るが)。

しかしながら万一事前に発見できず、侵入者の上陸を許したとなると、その対応は一挙に困難さが増大する。



大阪府警備業協会副会長 中島 元

誰が指揮を執るのか

軍・警の一体化は可能か

事案の内容は戦闘行為といふよりも、限り無く国内治安問題、つまり警察活動に近いものであり、ここでは自衛隊・警察が文字どおり一体となつて事に当たらなければならないことは言うまでもない。さて、そこで心配になつてくるのは、この両者の連携が果たして口で言うほど簡単にいくのであろうか、と云う問題である。

ちょっと考えてみただけでも、総括指揮権の問題(誰が指揮を執るのか、使用武器の決定、制圧開始時や、夜間訓練に演習場をお段方法は、時期は、相互の借りして指導を受けたり、

連絡通信体制は...。どれ一つ取つてみても双方の積極的もしくは消極的権限争いで大論争になりそうな事ばかりである。

第一、平素から、そのような議論ができるような両者の緊密な意思の疎通が図られていなければならない。実を言つて、この稿で私の最も主張したい事は、この一点なのである。

いささか古い、しかも限られた期間での、私の経験した判断で敢えて申上げる事を御海容いたただけるならば、ここは大いに懸念の存

私の体験から思う

幾つかの例を記してみよう。

私は四十年近い警察官生活の殆どを警備公安部門、それも情報活動よりも機動隊と一緒に一種の戦闘行動のような活動を行う警備実働という仕事を専門に過ごしてきたのであるが、その間、今思い返してみても自衛隊の人達との接触は極めて僅かなものでしかなかった。

こちらから自衛隊へのコタクトはレンジャー訓練や、夜間訓練に演習場をおたのであるが、発生後一週かかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

阪神大震災の教訓

さらに私が決定的に相互の連携の悪さを痛感したのは、あの阪神大震災のときである。当時、私は退職して某警備会社に勤務していたのであるが、発生後一週かかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

二重投資を避けよ

無責任な局外者の意見をまず第一に自衛官の待遇を今の倍くらいに優遇し、動員期間も六十歳くらいまで延長して、年金を含める生涯賃金を大幅に引上げて

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

その二は、述べたように、後回しにされかかっている有立法制「三分類」の整備。管轄の不明な省庁間を横断した諸問題の処理方法を法的に確立させる事が急がれる。

面白くなった台湾

関西防衛を支える会の総会に「防衛講話」を頼まれた。演題は台湾の他にはない。今の私には「日本人は台湾で何をしたのか」(平成十三年、国書刊行会)を出したのがきっかけだった。台湾の人々との交渉が俄かに深くなり、広くなった。

出版後間もなく、小著の中文(漢語文)版を出そうという話が始まった。現在翻訳が進行中だ。この春には出るだろう。

翻訳者は淡江大学の歴史学者、蔡錦堂氏と奥様。筑波大学で博士号を取った少壮の研究者である。学位論文は台湾総督府の宗教政策、精緻な研究だ。「日本帝國主義下台湾の宗教政策」平成六年、同成社。驚くほど広く日本時代の文献に当たっている。日本語も申し分ない。総督府の評価も中正と評してよい。戦後世の台湾人の間に、このような日本研究の俊秀が育ちつつあるとは頼もしい。

この日本に、かつて植民地があったことを知らぬ人間が増えていると聞いた。たまに植民地時代を取上げる研究者は、そらって「植民地支配の罪悪」という古いオハナシを繰返す。何か自分の「良心の証し」であるかのよう。

百年も前に、このオハナシの筋を書いたのはマルクスであり、特にレーニンの帝國主義論だ。——よくもこんなオハナシを繰返して、平然と研究者らしきことをいられるものか。独創性がどこにあるのか。

近年、植民地支配の点では日本国民の大先輩である西歐に、新しい学問動向が見えてきた。それを「植民地地下の近代化」論という。白人社会の自己弁護、彼らがアジア・アフリカに侵略を恣にした「西歐近代」を正当化しようとする気配だ。

それが日本の台湾・朝鮮統治を「注目すべき事例」だと持ち上げてくる。

それはどうだろう。戦後、目覚ましい経済成長を見せてアジアの小龍と賞賛された台湾も、韓国も、その

土台は日本の統治下に作られた。顧みて、西欧列強のどの植民地宗主国が、現地住民に対する「一視同仁」を考えたか、普通教育を施したりしたか。例えば英国がインドに、米国が比島に、何か現地住民の為になるようなことをしたか。

そのような国々が原告となって、日本の「侵略」やら「植民地支配」を責め立てたのが東京「裁判」だ。「ザ・エコノミスト」が、これを「victims trial」(勝った連中が行う裁判、つまり勝てば官軍)と評した。現代の国際常識だろう。

この常識を未だに持つことができません、そのため国益を大きく主張できないのが独り日本だ。「平和憲法」だの「歴史認識」だのと真逆らしいことを大まじめで論じている。そのツケはすべて我々国民が税金で払う。あるいは米国に、あるいは中国・北朝鮮に。肝腎の日本国民が国際常識を取戻すまで……。

2 義侠心、それとも「同胞」感謝

小著の中文版を出版するのは台北の前衛出版社である。小林よしのりの氏の有名な「台湾論」の中文版を出した所だ。台湾、つまり台湾独立運動にプラスになる本なら何でも出そうという、義侠心のある人物(林文欽氏)が社長で、外省人が支配する台湾の出版界において孤軍奮闘の様子だ。——

そう教えるのは宗像隆幸氏、「台湾青年」の編集長である。

実はこの宗像氏自身が台湾運動の「歴史的人物」の一人なのだ。今の日本にはついぞ見掛けぬ古風な義侠心を持つ。氏は台独の大義に感動し、日本人としての立場を活かして運動を助けた。当時それが一文の得にもならなかったことは勿論、生命の危険も覚悟する必要があった。——昭和四十四年、国民党政府の白色テロが無法な台湾人殺戮をつづけていた時代にはじめて渡台、台湾研究を始めた私である。宗像氏の比類ない勇気がよく分かる。そして感謝する。

私如き一介の研究者でさえ、現地調査した村の線民(スベ)に密告され、危うく追放された位だ。これは小著にも書いた。危険を察知して適切な対応策を考え出してくれたのは、台湾本省人の友人だった。たまたま警察に勤めていて、事情を知ったのである。私を長い間自宅に泊めて庇護してくれた本省人黄大鏐氏の一家も蒋介石政権に睨まれる危険を十分に知っていた。——とはいえ、私にそれを話してくれたのは、つい近年、大地震舞いに訪れた時だ。当時そんな事情は私に全く伏せたまま、現地調査に専念させてくれた。昭和六十二年、私は母校の東大に学位論文を提出、東京大学社会学博士の学位を得た。黄大鏐家三代(清朝・日本時代・戦後)の聞き書きを核にした台湾史である。だがそれは私一人の業績ではない。その背後には、実に多くの本省人の友人・知人の援助があった。それなしでは、私の研

日本人は台湾で何をしたのか

究一切の土台となった現地調査からして不可能だった。台湾二足向ケテハ寝ララヌ。私にはそういう想がある。

故事来歴は色々あるが、すべて割愛する。とにかく平成十三年の十一月末、私は何年ぶりに台湾に行った。

3 聞き書の信用度はどうして決まるか

前衛出版社にも出向いて挨拶した。無論十二月一日の立法院委員(日本の国会議員に当る)の選挙はつぶさに見学した。多くの古い友人、新しい友人に会った。その一部を紹介しよう。

この常識を未だに持つことができません、そのため国益を大きく主張できないのが独り日本だ。「平和憲法」だの「歴史認識」だのと真逆らしいことを大まじめで論じている。そのツケはすべて我々国民が税金で払う。あるいは米国に、あるいは中国・北朝鮮に。肝腎の日本国民が国際常識を取戻すまで……。

一人の人間から聞いた話やまたま眼にした一つの事物に拠って、あまり大きな判断はしない方が安全だ。それが兵要地誌の大原則だ。台湾人トハコナナタ、とか、日本人トハコガ違ワ、とか……。今時、米国入トハコナナタ、という日本人はいない。我々の

波書店。

典型的な文獻歴史学者の手になる東大の学位論文だ。力作なのかも知れないが、何と読みにくい日本文なのだろう。前に引いた蔡錦堂氏や、次に紹介する陳培豊氏といった、日本留学の台湾人研究者の書く日本文の明快さに比べべくもない。

まず結論が明示してある。手の内を見せているという意味で、正直といえ正直だ。だが——私は訝しく思う。他人の生み出した「narrative」(オハナシ)に添ってコツコツと史料を集めてゆくのが研究の凡てなのだろうか。史料を読み込んでゆくうちに思いがけない発見をする、つまり自分自身のオハナシを生み出さなくては二進も三進も行かなくなる、そういう瞬間がこの人々には訪れないのだろうか。

おおよそ物を書く人間には、心の奥底に、「現体験」とでも表現できる何かがある筈だ。それに衝き動かされて書かすにはいられぬ筈だ。それを欠いたまま、ひたすら論理と論理、学説と学説の整合を追及するのが執筆の目的なのだろうか……。

これは駒込氏と同じく東大で学位をとった台湾の友人、陳培豊氏から聞いたことだ。東大のアジア研究の分野では、基本的なオハナシは反日とおおよそ決まっているとか。それが一番無難だから、という。つまり、集団主義的なオハナシに唯々として従って

「学位論文」なるものをでつち上げる、というわけだ。——そのオハナシは元々誰が、どういう動機で作ったものなのか。そこまで頭を働かせて、さて自分自身の現体験に立ち戻るのが、ホンモノの研究の出発点ではないのか。

陳培豊氏の学位論文「同化の同床異夢——日本統治下台湾の国語教育再考」平成十三年、三元社)には、氏の現体験がハッキリと述べてある。それが胸を打つ。論文に「必然性」を与える。

小学校時代の氏は、日本時代は良かったと懐かしむ本省人に囲まれて育った。ところが中学校は外省人の住む場所に通い、教師たちから日本教育の猛烈な罵倒ばかりを聞かされた。当然彼の雅い頭は混乱し、懊悩する。日本時代の全否定は、そのまま台湾人の全否定でもあった。そのような心の奥底の苦しみを解明し、克服するべく、陳氏は日本に留学し、台湾における日本時代を専攻した。見事だ。そこには他人の理論・学説を道って右往左往する徒な博識は微塵もない。

米国の大学院の雰囲気はこれとは全然違う。「民主主義的」だ。

学生は授業において少しでも「異を立てよう」と努力する。自分だけのオハナシを説くことと試みる。「民主主義」という用語は戦後の日本では余りに多用・頻用されて殆ど意味を失った。だが敢てこの語を使おうならば、米国の学生は、「民主主義的」だ。つまり自分の考えを第一に押し立て、他人の考えと競おうとするから。

数年前、私は縁あってイェール大の人類学部に行き、「フェロウ」の資格で一年間滞在した。その詳細は、以前、「八帝国の知の喪失」(平成十一年、展伝社)に記したので興味のある方は参照して頂きたい。要するに米国の学生とまったく同じ条件を自分に課して、人類学者のいわゆる「参与観察」を試みたのだ。

さて、文獻研究の駒込氏に台湾の現地調査の経験はない。そのためかえって珍しかったものか、一つだけ台湾での現地経験が述べられている(終章)。それが何とも不思議な話なのだ。氏の記録する台湾人の話者は、少くとも私の三十年余の現地経験からすれば、「異常」な人物だった。——で、前後を読み直した。だがつきもななく突然出現する人物だから、確かなことはいつ判らぬ。「聞き書」そのものが理解できないのだから、信用度を測定しようもない。

この奇矯な現地経験を文獻歴史学者駒込氏が敢えて取り上げたのだから、彼のオハナシに都合のよい材料なのだろうか。といえは違ふ。氏はむしろ困惑している。あれこれ説明を試みるのだが、どれも説得力がない。——一体全体、こんな粗雑な聞き書をなぜ持ち出すのか。いちばん理解に苦しむのがそれだ。

5 聞き書、話してくれたのはどんな人?

新しい歴史教科書では超人的な努力を示した西尾幹二氏。氏が台湾人の対日感情にふれた文章にも、一点コレドウカナ?と思う「聞き書」があった。

西尾幹二「台湾を「親日」と決め込む危うさ」この文章は小林よしのりの氏(「台湾は信じられない国なのか?」)と対となって掲載された。「正論」平成十三年三月号。

小林氏の判断は、台湾と三十年余の御縁のある私のそれに近い。これには驚く。あの若さで、又またどう長くはない苦の台湾との縁で、よくもあれほどの成果が挙げられたものだ。

ヒット作「台湾論」の精度を支えたものは、第一に李登輝前総統はじめ卓越した台湾人との接触・聞取だ。だが、氏が「祖父の世代」の戦前・戦中の経験を、かつて身近に聞いたという幸運が、私のいう「現体験」になっているのかも知れぬ。(参照:鈴木満男「日本人のナショナルリズムと祖父たちの役割」「正論」平成十一年八月号)。

ともあれ西尾・小林両氏とも、自分のオハナシを語る。つまり「民主主義的」だ。左翼・反日知識人の如き集団主義的なオハナシではない。だから個性が見えて、それぞれ面白く為になった。

ところが西尾氏の論は、台北大学(台湾大学の誤りだろう)の許介麟という一教授からの聞き書に比重を置きすぎる感じだ。その点を丁寧に考えてみよう。

誰が西尾氏と許氏の間をつないでたのか。興味のある点だが不明だ。

許氏は「独立派の親日台湾人、在日台湾人から最も嫌われている人物」であるという。私はこの人を直接に知らないが、その言葉をそのまま信じてよいのかどうか、何とも言えぬ。だがもしも本当にそうなら



学博士 鈴木満男

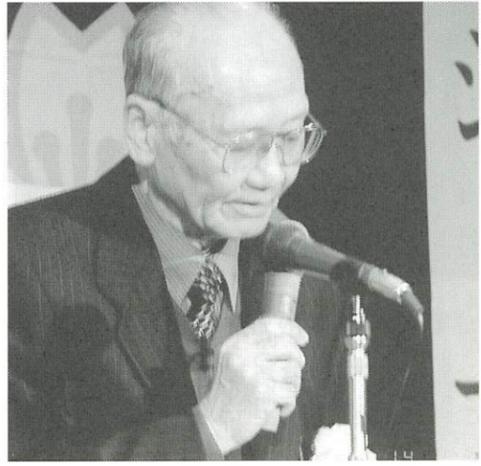
「面白くなった台湾」の著者である鈴木満男博士の経歴や、本書の背景について紹介している。

「米国の学生のオハナシは民主主義的」の著者である鈴木満男博士の経歴や、本書の背景について紹介している。

「米国の学生のオハナシは民主主義的」の著者である鈴木満男博士の経歴や、本書の背景について紹介している。

「米国の学生のオハナシは民主主義的」の著者である鈴木満男博士の経歴や、本書の背景について紹介している。

私の台湾兵要地



講演中の鈴木博士

社会

ていないだろうか。——もっとも、この発言の重点はそこにはない。日本留学が不人気だ、と主張したいのだ。

戦後、台湾人に与えた恩恵の点で、日本と米国との間には天地雲壤の違いがある。例えば武力を示して中国の恫喝をさへぎった米国と、台湾と中国は統一すべきだと説く政治家が右にも左にもいる日本と。

大東亜戦争に出征した台湾人は三十万、戦死者は三万とか。戦後の日本政府は彼らにどう酬いたのだろうか。軍事郵便の問題もある。私だけではない、かつて台湾で現地調査をしたことがある人間ならば、コト通帳へ何トカオライモノデショウカ、と見せられた辛い経験を持つ。

情報収集が自力でなし得るか

近頃では、多くの本省人が敬愛する李登輝前総統の訪日希望を、日本政府は中国の意向を受けて失禮にも拒否しようとした。日本国民の強い政府批判が、やっと李氏の来日を可能にしたのだ。——我々はこんな恥ずかしい政府を持っているのだ。いや、選挙で選んだのだ。

これほど冷淡であり、不義理だった日本に対して、逆に終始暖かい旧同胞の情をもちつづけてくれたのが大部分の台湾本省人、戦前の言葉では「本島人」だった。そのような感情は、今なお戦後世代の一部に引き継がれている。西尾氏は多分御存知ないだろう。そのような若手の日本留学組を私は個人的に何人か知っている。

そのうち二人、蔡錦堂・陳培豊両氏の学位論文を私は精読した。実に水準の高いもので日本語も立派であることは前に述べた。戦前の膨大な日本語文献に取り組んだ彼らの勉強量を想像して、私は感動した。張炎憲氏もこのような日本留学組の歴史研究者に加えることができる。いま国史館館長の重任にある。長く秘密にされていた二・二八事件大屠殺の真相。氏はその開書を克明にとり、戦前世代の記憶を戦後世代に伝えようとした。

これらの人々を頂上とする日本留学組の形づくる山には、広い裾野がないだろうか。これまでほとんどなく、現在それが急速に形成されつつあると私は想定する。

要するに、ひとりの「反」独立派、「反」親日

派・・・の客家系学者の証言に、西尾氏ほど大きな証言力を与えないほうが賢明だろう。

7 政治人類学は兵要地誌の兄弟だ

「私の台湾兵要地誌」を説明する前置きとして、私の台湾人脈の一部に触れ、さらに他の人の記す「開書」の信用度を、私がどうゆう基準で判定するかを述べた。ここで本論に入りたい。

さて、「兵要地誌」という古い用語は、今でも使われているのだろうか。この語を活用してみよう、そう思い立ったのは、第一に、関防会の会員の講演だからである。軍事的な表現を用いる方が、その関心に添いやすいだろう。

だが第二に、いささか重要なのは、私の専攻する政治人類学が、その名称はとにかく、実質において兵要地誌に非常に近いのだ。かつて「民俗学」(エスノロジー)つまり現在一般にいう「文化人類学」の先輩学問なのだが、それは西欧の「植民地支配の侍女」と言われた。文化人類学にもそういう性格、あるいは利用法が確かにあるのだ。

戦後の日本では一時は随分もはやされた『菊と刀』の印象から、この本を貫く学問方法である文化人類学が、いかにも物柔らかな、平和主義的な、他国・他文

な前提を裏切ることばかり多かった。それを私は事実として確認している。むしろ「仮想敵国」と呼び、考える方が事実に近い。仮想敵国に対しては、自然・物質的条件の研究や調査だけではなく、人文・歴史的条件のそれも必要な筈だ。ことによると、単純な軍事力よりも、敵国民の性情や慣習を知る方が一層役に立つ場合もあるだろう。その手の情報を「兵要地誌」と呼ぶのに無理があるだろうか。

今の日本でも、着実にその方面の情報収集を行っている人々が、自衛隊や公安関係者にはいるに相違ない。それがなくては、現在のセチガライ世界情勢の中で日本国民が生きてゆける筈がない。とはいえ、その活動は弱々しく、貧弱だ。米国からの「補給」がなくても自立できるのだろうか……。

明石は露都ペテルスブルクに赴き、当時反政府運動を行っていた多くの集団に近づいて彼らに活動資金を貢いだ。レニンの一派もここに含まれているが、重要な相手では無かったらしい。

明石の組織した後方攪乱によって、帝政ロシア軍はその強大な勢力を挫かれた。おかげで、すでに国力の限界に達していた日本は、危うく日露の講和に持たせられた。兵要地誌の「人文系篇」の輝かしい戦果である。大東亜戦争——米国の名称では太平洋戦争——ではどうだったか。

日本側にも、ビルマ独立運動を助けた藤原機関のような見事な成果があった。戦争に負けたので、凡て空しくなったかのように勘違いしている日本人が多い。だが決してそんなことはない。日本人の夢見た——西欧の植民地支配からの——アジア解放の理想は、戦後大きく花開いたのだ。今なお「アジアの近隣諸国」を除く多くのアジア人がそれを記憶している。

この二つを使って、詳しく説明の予定が、残念ながら狂った。又の機会を待つ他はない。とはいえ、私の結論は明快だ。この節の題目に示したとおりである。私の拙い講演に納得し、同感して下さる方に、今後お願いしたいことがある。それは、日台の精神交流に今後積極的に乗り出して下さることだ。

小著を読んで手紙をくださった方がいる。某地方の海洋少年団の団長さんだ。この夏、少年たちを引き連れて数日の台湾旅行を計画している、ついでは何処々々を見学したらよいか、というお尋ねだった。昨年十二月の訪台の時、「金美齡さんと百人の日本人訪台団を歓迎する会」で知り合った本省人がいる。たまたま親光関係の人で、日台協力・連帯派なのである。早速、団長さんに紹介してあげた。

また旧知の「大和心の会」の幹部の某氏は、去年はじめて台湾に行って大いに気に入った。直ちに二度目の訪台を試み、前回には見落とした芝山巖(私の名勝地図の台北の箇所を参照)を見学に行つたという。こんな具合に、各人が各様の考え方や手法で、日台の切っても切れぬ深い関係を再確認し、強化する試みを展開して頂きたい。「アジアの近隣諸国」に気兼ねする卑屈な宮沢流・河野流を蹴飛ばす、日台協力・連帯の大きな波を起す。それだけに、万事も自当の政治家を動かす、政府を動かす、日本列島の防衛に欠かぬ台湾海峡の安全をその全をそのようにして守りたい。

私/台湾兵要地誌、以上終り。報告者 八元海軍 經理学 校、第三十六期一 号生徒、鈴木満 男。

6 冷淡な戦後の日本人

「日本に行って学位を取ったのはこの大学では私ひとり、その後他の教授はみんなアメリカに留学した。」許介麟氏はそう話したという。台大から、許氏以外には本当に一人も日本留学はし

8 私の台湾兵要地誌の結論は——日台協力・日台連帯だ

台湾にこれまで詳しくない方のために、日台関係の歴史を手短かにまとめた。それが「台湾国史・略年表」である。「台湾国史」という名称は、これまで「公正正義」(四十六年憲法前文)を前提として物事を考える空想的な人間ではない。「アジアの隣国」なんぞと、日本の主流言論が尊重する北鮮や中国。戦後の半世紀以上、彼らの言動は日本憲法の「平和主義的

な前提を裏切ることばかり多かった。それを私は事実として確認している。むしろ「仮想敵国」と呼び、考える方が事実に近い。仮想敵国に対しては、自然・物質的条件の研究や調査だけではなく、人文・歴史的条件のそれも必要な筈だ。ことによると、単純な軍事力よりも、敵国民の性情や慣習を知る方が一層役に立つ場合もあるだろう。その手の情報を「兵要地誌」と呼ぶのに無理があるだろうか。

信太山駐屯地創立45周年記念
* 4月14日(日)午前10時より
観閲式、訓練展示、音楽演奏
* 見学希望者は弊社または
下記までお電話下さい
大阪府和泉市伯太町官有地
電話0725-41-0090
交通機関 阪和線 JR 信太山下車

第3師団40周年創立記念
* 5月19日(日)午前10時より
観閲式、訓練展示など
* 見学希望者は弊社または
下記までお電話下さい
伊丹市広畑1-1 駐屯地広報室
電話0727-81-0021

第4回総会で高橋会長と筆者(右)



「平時」から
時如何にして
文化を二挙に切断すること
である。そうしなければ國
は改まらぬ。

「法と正義」の原則をドブ
に捨て、ロシアから
賄賂をもらって自國領土を
割譲した清朝末期の官官の
ような橋本内閣以来の政治
文化を二挙に切断すること
である。そうしなければ國
は改まらぬ。

最近ようやく「有事法
制」の整備が急がねばなら
ないという議論が顕在化し
てきた。しかしながら、技術
的・小手的な問題の指摘
のみが多く、大方針の政治
的決断がない。以下、この
観点から私見を述べたい。

有事法制の整備の問題
は、官僚の縄張り整
備ではない。しか
し、防衛白書のなか
での有事法制研究
は、第一分類、第二
分類、第三分類と分
けて、官僚の領域調
整に重点を当てて記
載されている。なる
ほど、このような細
かい議論も必要であ
ろう。しかし、この
官僚的研究が生きて
くるのは政治的決断
があつてのことなの
だ。この政治的決断
なき有事法制研究は
無意味である。

国軍創設の政治的決断

衆議院議員 西村 真悟

武力攻撃を撃退排除しえる
我が国の組織は何か。それ
こそ、我が国の軍隊であ
る。現実的にも国際法上も
我が国の軍隊しかこの祖國
防衛の戦闘はなしえない。
よって、我が国における有
事法制整備のための第一の
政治的決断は、「国軍の創
設」であらねばならないの
は自明ではないか。この決
断なき有事法制は結局現実
に機能しない。しかしなが
ら、今の内閣も政治家も、
なぜか不思議なほどに、こ
の戒厳令制度を政治決断し
なければ、いかに有事法制
を研究しても無意味であ
る。また、危険である。な
し崩しに法制を改革しては
有事を克服するどころか、
混乱を増幅し崩壊に至る
か。これも自明の事
ながら、日本国民の
軍隊にして日本国民
がその国軍の主体で
はないか。よって、
「日本国家の防衛は、
日本国民の権利であ
り義務である」との
原則は、国軍創設と
不可分の政治的決断
として確定されなけ
ればならない。

すなわち、「祖國
を防衛する神聖な義
務を有する日本国民
を主体とする国防軍
の創設」が有事法制
の前提である。そし
て、このことは国防
省設置から自衛隊法
改正を政府が決めれ
ば直ぐ改まる。何故
なら、現在において
も自衛隊と言つ美質
の軍隊が我が國
には既に存在す
るからである。

次に、有事法
制という以上、
平時法制を念頭
において有事に
は平時の法制を
一時停止して有
事に切り替える
と言つことを意
味する。したが
って、明確に何
時如何にして
「平時」から

撃墜せよ

平成の世に、かかる軍人ありき

……もう書いてもよいと
思ふし、本人は書き難いだ
らうから本人の許可も得ず
に書くが、佐藤守が南西航
空混成團司令だった頃、尖
閣列島の領有を主張する台
灣がヘリコプターを用ゐて
侵犯を計畫した事がある。
それを知った佐藤は、F四
ファントムを二機交替で常
時張付け、T四を哨戒さ
せ、場合によっては撃墜す
るといふ意思を明確にし
た。台湾はどうしたか。侵
犯を断念した。断念してぐ
うたら國の空軍を見直した
に相違ない。

では、台湾が警告を無視
して断念しなかつたらどう
なつたらうか。無論、我が
ファントムがヘリコプター
を撃墜して、それは極樂蜻
蛉國の大事になつて、佐
藤は詰腹を切られたであ
らう。だが、それを知って
諸外國の軍人は佐藤を稱揚
し深く同情するに決まっ

編集後記

*第四回定時総会が終了し
た。残念なことは会員数が
減傾向にあることだ。高
橋会長の信念である「国防
は最大の福祉である」と謂
う至言は哲学的な深みがあ
り、理解しがたいかも知れ
ない。しかし、国防を疎か
にした為、北鮮に拉致され
た同胞と、その家族は呻吟
されているのである。それ
は歴史上に枚挙なく、明日
は我が身であると銘記すべ
き。

*中島元氏は剣道七段で
かつては大阪府警の重鎮で
あった。昭和二十年八月の
敗戦を満州國は奉天二二
年生で迎えられた。少年期
の過酷な体験が警察官への
道を選択させたものと拝測
する。その経験から滲み出
る論考は傾聴に値する。

*鈴木真悟博士は講演より
も論文が素晴らしい。月刊
誌「諸君」「正論」などに
多く執筆されたが、小紙へ
の寄稿はオビオン誌に掲
載されるべき内容である。
「正論」に掲載された西

花の駐屯地桜フェスタ2002

4月7日(日)午前9時30分から午後4時
まで駐屯地を公開し、次の行事を予定
しています。

1. その他の行事
(雨天の場合一部行事を中止させて戴
きます。)

- 模擬売店 9:30 ~ 16:00
- 子ども広場・高機動車等試乗 10:00 ~ 15:00
- 野点 10:00 ~ 14:00
- 音楽演奏・太鼓演奏 13:00 ~ 14:00
- 美術展・広報展示 9:30 ~ 16:00

連絡先 陸上自衛隊伊丹駐屯地業務隊
総務科 電話(0727)82-0001 内線3110

平成14年度の会員募集中

御入会のお願い

- * 法人会員・年会費 20000円(1口)
- * 維持会員・年会費 10000円(1口)
- * 一般会員・年会費 3000円(1口)

銀行振込みの場合、入会者の住所が判ら
ない為紹介者の氏名をご連絡くださるようお願
い申し上げます。

郵便振替 No.00960-2-137035
加入者名 関西防衛を支える会
住友銀行守口支店 普通口座 1261314
口座名 関西防衛を支える会

小会の顧問でもある代議
士は、定時総会当日、三十
代の市会議員数人と共に会
場に現れた。その一団を見
て、我が国もまんざら捨て
たものではない、と。西村
代議士の薫陶を得た彼ら若
手が國政の場に登壇する日
の速やかに来らん事を祈念
する。

*「撃墜せよ」の佐藤守元
空将は小会にも馴染みの武
人だ。昨年の総会でも講演
をお願いし、また「私の戦
闘機人生」と題して寄稿も
頂いた。かかる武人が健在
ならば我が國も安泰なの
だが、それにしても政治の
貧困は、(新)

印刷全般

株式会社 **ダイワ**

代表取締役 **釋迦郡 文雄**

〒536-0015 大阪府東区新喜多一丁目三
TEL 06(6932)6411
FAX 06(6932)6416
e-mail: contact@daiwa.com

交通至便・駅前・一泊五、五〇〇円(税・サ込)

ビジネスインナンバ

〒556-0011 大阪市浪速区難波中一丁目二
TEL 06(6644)5177
FAX 06(6644)5177

死んでたまるか!!

抗ガン作用のある
β-グルカン
アガリクスの3.8倍!!

～免疫力を高めます～
ガン・糖尿病・高血圧などの方に

ハナピラタケ含有食品

花珊瑚

代理店 株式会社 日生工研
代表取締役 前田 稔
大阪市福島区吉野4-27-12
TEL(06)6462-8528
FAX(06)6462-5824

株式会社サンワ運行委託

送迎バス運転代行の安心と信頼の責任集団

代表取締役 **山本 覺**

〒570-0032 大阪府守口市菊水通二丁目十九
〒652-0806 神戸市兵庫区西柳原六丁目四

同期の桜を歌う会

場所:大阪護国神社
日時:平成14年4月6日(土)
13:30~16:30

◎皆様奮ってご参加下さい!
参加費用 1,000円
(ビール・おつまみ付)

大阪市中央区谷町2-7-6
みのるビル605 〒540-0012
電話(06)6947-0720
FAX(06)6947-0830